

# 使い方

1. Pythonの環境構築をする。
2. SudachiのGithub  
<https://github.com/WorksApplications/Sudachi#sudachi-日本語readme>

すべてのファイルの配置を記述する

```
sudachipy_env
- oitama_system (メインのシステム)
- outputFig (作図データの保存先)
- share (よくわからない)
- outputCSV (出力CSVの保存先)
- lib -> python3.9 -> -> site-packages -> ここの中に、いろいろなパッケージが入っている。
この中の、sudachipy -> resources -> この中に、バイナリ化した辞書を配置することになる。
- user_dict ( この中に、バイナリ化したいSCV辞書を格納しておく )
- requirements.txt
- auto_evaluation.csv ( ここに正解データを入れたCVSを置いておく。名前は、auto_evaluation.csv )
```

requirements.txtを実行すれば使用しているすべてのパッケージがinstallされるはず。あとは、sudachi\_coreなどの辞書はその時の最新を入れる。

CSVで作成した辞書を、バイナリ化 ( 01表記 ) する。

```
sudachipy ubuild \
-s ./lib/python3.9/site-packages/sudachidict_full/resources/system.dic \
./user_dict/sudachi_oitama_dict_others_1.4.csv
```

↑をコマンドライン (ターミナル) で、実行してバイナリ化する。(難所、要注意)

→ バイナリ化、実行成功したら、sudachipy\_envの中にuser.dicが生成されるので、sudachipy

lib -> python3.9 -> -> site-packages -> sudachipy → resources → の中に格納する。  
そこにある sudachi.jsonの中に、そのファイル名を適切な場所に記述する。

→ バイナリ化失敗したら、CSVの中にミスがあるはず。

空欄に、asteriskがないとか、情報が埋まってないとか、接続IDが8000以上だとか、エラーを読めばCSVの何行目のどこがミスっているかわかる。

## 実行

pythonを実行する。

sudachipy\_env に移動して、oitama\_system に移動して、、、

そこで、python3 main.pyを実行する。

“なにをしますか？”

'0:分割と評価','1:翻訳と評価','2:作図'

その後、言われた通りに選択する。